

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	教育学研究科		カテゴリー	マネジメント・キャリア ア・研究者倫理科目 群		横断 区分	文理横断型		
授業科目名 (英訳)	大学で教えるということ (Teaching at University: A Preparing Future Faculty Program)			講義担当者 所属・職名・ 氏名	高等教育研究開発推進センター 准教授 山田剛史 教授 松下佳代			開講 場所	吉田南1号館 (予定)		
配当 学年	修士 博士後期 専門職	単位 数	2単位	開講年 度・開講 期	後期	曜時限	2月上旬 (集中講義)	授業 形態	講義・ 演習	使用 言語	日本語
〔授業の概要・目的〕											
<p>・将来、大学教員を目指す大学院生にとって、研究者としての力量とともに、教育者としての力量を養うことは、近年とくに重要になってきている。本授業では、参加者同士の議論や協調学習をベースに、大学で教える上で必要となる基本的な知識と技能を身につけることを目的とする。</p> <p>・本授業は、授業デザインに関する講義や演習、模擬授業・検討会など、参加者主体で構成されている。</p>											
〔研究科横断型教育の概要・目的〕											
<p>理系・文系を問わず、自らの研究領域を初學者であるところの学生に教えるためには、相応の知識と技能が必要になる。本授業では、講義と演習を通じた授業デザインに関する基礎的な知識・技能の習得を行う。加えて、大学院生同士が、研究領域あるいは大学という枠を越えて、「大学授業」について議論を行うことで、各自が大学で教えるということに関する広い視野を持つことを目指す。</p>											
〔到達目標〕											
<p>(1) 大学教育の現状を知り、理解すること (2) 授業デザインに関する基本的な知識を知り、理解すること (3) 効果的な授業デザイン(到達目標・評価方法)を作成すること (4) 多様な授業方法を知り、活用方法を計画すること (5) 模擬授業・検討会を通じて、授業実践の技能を磨くこと (6) グループでの協同作業に積極的に関わること (7) 自身が大学で教えることに関する広い視野と具体的なイメージを持つこと</p>											
〔授業計画と内容〕											
<p><1日目> ①ガイダンス、アイスブレイク ②ミニ講義・討論: 大学教育改革の動向を知る ③ミニ講義: 授業デザインの基礎を知る ④ミニ講義・演習①: シラバスをデザインする ⑤グループワーク①: テーマ設定・シラバス作成</p> <p><2日目> ⑥ミニ講義・演習②: 様々な教授法を体験する ⑦授業デザインシートの説明・作成事例紹介 ⑧グループワーク②・③: 授業デザインシート作成 ⑨中間発表・相互コメント ⑩グループワーク④: 授業デザインシート作成、模擬授業の準備</p> <p><3日目> ⑪模擬授業準備 ⑫模擬授業・検討会① ⑬模擬授業・検討会② ⑭評価を受けてのグループ討論 ⑮グループ発表</p>											
〔履修要件〕											
特になし											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
<p>①グループ活動への積極的な参加(20点)・・・特に、目標(6)と関連 ②シラバス、授業デザインシートの質(20点)・・・特に、目標(3)(4)と関連 ③模擬授業の質(30点)・・・特に、目標(5)と関連 ④ピア・レビューシート(10点)・・・特に、目標(6)と関連 ⑤最終レポート(20点)・・・特に、目標(1)(2)(7)と関連</p>											

〔教科書〕
使用しない
〔参考書等〕
<p>＜大学教育改革の動向を知る＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都大学高等教育研究開発推進センター(2012)『生成する大学教育学』(ナカニシヤ出版)ISBN:978-4779506451 <p>＜大学教員になるために大学院生が知っておくこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田口真奈・出口康夫・京都大学高等教育研究開発推進センター(2013)『未来の大学教員を育てるー京大文学部・プレFDの挑戦ー』(勁草書房)ISBN:978-4326250882 ・夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子(2010)『大学教員準備講座』(玉川大学出版部)ISBN:978-4472404009 <p>＜授業デザイン関係＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤浩章編著(2010)『大学教員のための授業方法とデザイン』(玉川大学出版部)ISBN:978-4472404184 <p>＜教授・学習理論、教授法関係＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター(2015)『ディープ・アクティブラーニングー大学授業を深化させるためにー』(勁草書房)ISBN:978-4326251018 ・溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』(東信堂)ISBN:978-4798912462 ・中井俊樹編著(2015)『シリーズ大学の教授法3 アクティブラーニング』(玉川大学出版部)ISBN:978-4472405334 ・その他、適宜紹介
〔授業外学修(予習・復習)等〕
<p>模擬授業の実施に必要な、シラバス、授業デザインシート、補助教材を作成するために、各グループで調整しながら授業外学習を行うことが求められる。</p>
〔その他(授業外学習の指示・オフィスパワー等)〕
<p>教育に関心がある大学院生だけではなく、将来大学教員という職種を希望している大学院生であれば、所属や専攻を問わず、受講を歓迎する。なお、受講に際して疑問等がある場合は教育学研究科・高等教育開発論講座 山田剛史 (yamada.tsuyoshi.7u@kyoto-u.ac.jp)までメールにて問い合わせること。</p>
<p>* 授業の全日程に参加した者には「修了証」を授与する。</p>